くまざさ

新らしい百年へ次の一歩

第63号
発行
釧路湖陵同窓会
くまざさ編集委員会
発行日
平成25年8月10日
印刷所
藤田印刷㈱

生徒一人一人大切に

今年4月、宮下祐司校長が着任しました。宮下校長は1956（昭和31）年3月、釧路市に生まれ、釧路市立旭小学校、同北中学校、釧路江南高校を卒業し北海道教育大学釧路校に進学し、教師の道に進みました。

大学時代、『方丈記』などで知られる鴨長明の『発心集』を研究しました。専門は国語、古典です。網走管内清里高校、札幌稲西高校で教べんをとり、網走などの教育局に勤務したあと、再び現場に戻り余市高校、根室高校で校長を務め、湖陵高校に赴任しました。

清里高校ではバスケット部の顧問を務め、網走管内ベスト8を目標に掲げて指導しました。するとめきめきと実力を上げ、近隣の高校の中ではトップクラスにまで押し上げました。また、卒業式では当時定番だった「仰げば尊し」の代わりに卒業歌をつくることになり、作詞を担当しました。歌いやすいメロディーで、今でも歌われていることに感激しています。

稲西高校は新設校でした。転勤すると記念すべき1期生の担任を任されました。「生徒会など学校を一からつくるという経験は、たいへん貴重でした」と振り返ります。部活動は女子ハンドボール部。清里高校同様、経験のない部活動でした。1年目は点を入れることすらできなかった試合もありましたが、3年目に全道大会に初出場し、以降8年連続出場を果たしました。そのうち7年目は石川国体に駒を進めました。その時の全道大会決勝の相手が小島収治先生率いる湖陵高校。「胸を借りる」つもりで戦いましたが、接戦を制して全国大会へのキップを手にしました。

今でも部活動観戦は大好きで、今年は全道、全国で活躍する湖陵生が多く、校長室に飾っているトロフィーに目を細めています。

釧路教育局の経験はありますが、「若い頃から釧路の学校に勤務したかった」という宮下校長。念願がやっとかないました。「湖陵高校は、文武両道の精神のもと、まさに地域のトップであり、多くの優秀な人材を輩出している名門校。地域をリードする学校づくりをしなければいけないという責任の重さを感じます」と話します。

また、「昨年の開校100周年記念事業では、生徒たちはがんばりました。新しい歴史を刻む中で、生徒一人一人を大切に育てる学校をつくりたいですね」と宮下校長は抱負を語ってくれました。

星　匠（湖陵30期）

釧路湖陵高等学校 新校長
宮下　祐司 氏

目次

宮下湖陵高校校長インタビュー…… 1頁
空気の良さに感激 …… 2頁
東京湖陵会・札幌湖陵会・関西湖陵会 3頁
「不思議な縁」宮下明輝高校校長 …… 4頁
応援団復活・刊行案内 …… 5頁
親子三代釧中・湖陵百年紀（浜木さん） 6頁
学園だより…… 7頁
当番期だより・編集後記…… 8頁

湖陵同窓会HP　http://kushiro-koryo.hp.infoseek.co.jp/

空気のよさに感激
福島から釧路に移住

東日本大震災から2年ちょっと経過しました。原発の影響を受けた福島県には多くの同窓生がいらっしゃいますが、その中のお1人、S・Yさん（湖陵11期）が、昨年5月にふるさと釧路へ戻ってきました。ちょっとした縁があり、お話しする機会がありました。ご本人の希望で、お名前はイニシャルにしています。震災当時や釧路に戻ったいきさつを聞いてみました。　星　匠（湖陵30期）

S・Yさんは湖陵高校時代、生物部に所属していました。当時、春採湖で活動していた際、「湖陵高校生物部です」と言えば、ボートの利用料をサービスしてくれたこともあったそうです。

26歳まで釧路で生活していましたが、結婚してご主人の仕事の関係で沖縄県をはじめ、全国各地を回りました。福島県いわき市小名浜に転勤した際、季候がとてもよかったため、いわき市内に家を構えました。

2年前の3月11日。2階にいたところ、カタカタと揺れ始めました。そのうち揺れが大きくなり、1階に下り、庭の梅の木の根本にしゃがみこみました。激しい横揺れが続きましたが、とても長く感じたそうです。

東日本大震災の1年ほど前、テレビで「宮城県沖地震はいつ来てもおかしくない…」というある先生の話に動かされ、壁に掛けていた絵画やはく製などをひとまず、床面に下ろしておきました。そして地震保険に加入しました。家は、幸い大きな被害はありませんでした。でも多少のヒビなどがあり、5％の保険金がおりました。その時の保険料は14，000円だったのですが、今は80，000円にもなっているそうです。ガス、水道が止まり、かろうじて電気（東北電力）だけは通っていました。福島県にある原発は、福島県人のためにあるのではなく、首都圏向けのものなのです。常磐高速道が開通したのが一週間後で、開通後すぐに一番のバスに飛び乗り東京へ向かいました。「東京駅の様子は何も変わらず、道行く人も何も変わっていませんでした。私たちだけが東北で焦燥の日々を送っていたことを感じました」とS・Yさんは振り返ります。

以前に住んでいた横浜に行き、何度か利用したこのとあるホテルに落ちつきました。一週間ぶりにゆっくりと使える風呂やトイレ、そして、災害後はとりあえず睡眠をとっていたものの、ベッドを見たとたん眠気が襲い「昼となく夜となく3日間眠り続けました」といいます。心身ともに疲労が蓄積していたのでしょう。

S・Yさんの自宅は、事故のあった原発から55キロ離れています。避難区域にはならなかったこともあり、避難区域内の人たちが「同じ県内にいたい」と、いわき市内に中古住宅などを求める人たちがたくさん引っ越してきました。

1カ月が過ぎ、ライフラインがつながりいわき市に帰りましたが、余震が続くなどまだまだ不安でした。それに輪をかけて、放射能という目に見えない恐怖がS・Yさんを襲いました。でも5年前、自宅をバリアフリーにするなど、永住しようと決めた家から離れる決心はなかなかつきませんでしたが、昨年の正月、とうとう福島を離れることを決心しました。

S・Yさんは、「福島では表土を削るなど対策を講じていますが、どこまで効果があるのでしょうか。福島は農業や漁業が盛んですが、どうなるのでしょうか。中学生が言った『福島県出身者は結婚難民になるんだって～』という言葉に『そんな事ないわよ～』と根拠のない気休めでしかない、なぐさめの言葉を言う自分を、「空々しく思いました」と言います。

「いわき市に残った人たちの考え、簡単に移住できない人たちのことを思うと、うしろめたさを感じます」というS・Yさん。「国や東京電力からいろいろな情報が出されますが、結局判断しなければいけないのは自分ですね」とS・Yさんは振り返ります。

移住を決めてから釧路市役所と居住場所を相談していましたが、それも決まり、昨年5月、釧路移住が実現しました。クラスメートがさっそく歓迎の宴を開いてくれ「よく決心したね」という短い言葉に「万感の慰めを感じ、たいへんありがたく思いました」と感激しています。

「緑の美しさ、夏でも冷涼な空気は、清潔感そのもの。止めることのできない呼吸を危惧しながら暮らす所が、日本の国土、地球上にあってはいけないと思います」とS・Yさん。また、「震災に遭い、見えなかったものが見えました」と言います。それは、震災後、毎日のように電話をかけてくれる東京在住の同窓生、『こんな時だからこそ』と上野のお花見に誘ってくれる東京の友人、そして、釧路の同期。「この年になって、最悪のアクシデントに見舞われたおかげで普段は見えない人の心に接することができ、勇気と希望をいただきました」と感謝しています。

夏でも最高気温が20度に満たない釧路でも牡丹の花が咲いていることに感激しました。「先日、妹から牡丹をもらいました。繊細で優雅、（寒さに負けず）強い花を見て、人間もこうありたいもの」とS・Yさんは話していました。

各地湖陵会

東京湖陵会

第24回東京湖陵会が、6月15日に新宿区の日本青年館で開かれ、約180人が参加しました。黙祷、校歌斉唱に続き、正札喜久雄会長（湖陵21期）があいさつしたあと、年2回の会報発行、会員の拡大と組織化、名簿整理など平成25年度事業計画が話し合われました。

懇親会で応援歌を熱唱

議事の後は、懇親会にうつり、ふるさと釧路や高校時代の思い出話に花を咲かせていました。

新役員は次の通りです。

▽会　　長　正札喜久雄（湖陵21期）
▽副 会 長　三上希予子（湖陵18期）
〃　　西沢みどり（湖陵21期）
〃　　諏訪　幹雄（湖陵23期）
▽幹 事 長　鈴木　寛（湖陵23期）
▽副幹事長　澤田　雅弘（新・湖陵37期）
▽会 計 長　野村麻利子（湖陵27期）
▽会計監事　八幡　隆文（湖陵21期）
〃　　橋本　武（湖陵34期）
▽会計監事　菊地克保（湖陵13期）
▽名誉顧問　中川　晋（湖陵11期）
▽顧　　問　伊藤拓摩（湖陵21期）
進藤一夫（湖陵21期）
山崎光裕（湖陵21期）

懐かしい応援団を再現

で通して5時間、大いに語り、大いに飲みかつ食い、心ゆくまで唄い、大いに盛り上がって、きわめて有意義な深い交流を果たしました。閉会後も別れがたい気持ちで、3次会、4次会と交流を深めた方々も少なからずいただろうことにも敷衍（ふえん）しておきます。

結びに、遠路ご参加いただいた札幌の伊藤拓摩会長（湖陵21期）、東京の正札喜久雄会長（湖陵21期）、またこの会のために特別なメッセージをお寄せいただいた栗林延次会長（湖陵17期）へ、一同に代わって厚くお礼申し上げます。　今井善紀（湖陵11期）

札幌湖陵会

札幌湖陵会第27回総会が、7月6日に札幌ホテルで開かれました。総会には、釧中31期から湖陵45期まで約220人が参加し、旧交を温めました。今年は役員改選も行われ、伊藤拓摩会長（湖陵21期）ら役員3人が顧問に就任、新会長には稲村尊史氏（湖陵26期）が選出されました。稲村新会長は「湖陵のプライドを持って集まれる会として今後も発展させたい」とあいさつしました。

新役員は次の通りです。

▽会　　長　稲村尊史（湖陵26期）
▽副 会 長　浅沼和明（湖陵28期）
▽幹 事 長　鹿又智峰（湖陵30期）
▽幹　　事　畑みゆき（湖陵28期）
▽会　　計　佐藤里枝（湖陵33期）

関西湖陵会

第1回（2008年）以来、愚直に「4月第3土曜日開催」を押し通して、今年の関西湖陵会（西田暉至会長・湖陵7期）第6回総会・懇親会は、4月20日（土）に大阪梅田で開催しました。参加したのは、この写真に写っていない2人を含めて21人でした。1・2次会とも、同じ会場

関西湖陵会に参加した同窓生

不思議な縁に引き寄せられて

湖陵30期　宮下　聡（釧路明輝高校校長）

はじめに

同窓の皆様には大変ご無沙汰しております。この4月から釧路明輝高校の校長として故郷で勤務することになりました宮下と申します。高校時代は野球部に所属し、当時の市営球場（現：富士見球場）で多くの同窓の皆様の応援を力に、3年間充実した活動をさせていただきました。卒業後は筑波大学体育専門学群に進み、体育教員を目指して学生生活を送る一方、部活動では硬式野球部に所属し、4年間活動しました。

高校教員から教育行政へ

大学卒業後、道北の高校の期限付教員を経て、昭和58年、開校して4年目を迎えた釧路北高等学校に新任教員として採用されました。当時の校長は町田康雄先生（湖陵高校第21代校長）で、教員としての心構えや学校づくりの厳しさなど徹底して指導していただきました。この釧路北高校で学んだことは私の一生の宝であり、勤務先が変わってもその教えを心の支えとしてきました。

道内3校の高校で17年間保健体育科教員として勤務した後、平成12年から道教委指導主事として教育局や本庁で勤務し、定時制高校教頭、道教委主幹、苫小牧高専学生課長を経て現在に至っています。初めての校長採用の地が釧路市、学校が釧路明輝高校に決まったことに私自身が最も驚いています。

不思議な縁

釧路明輝高校は、釧路北、釧路西、釧路星園高校を統合し、総合学科として平成19年4月に開校した学校です。釧路北高校が教員の振り出しの私にとって、再び愛国の地から校長としてのスタートを切ることになったことに「不思議な縁」を感じています。

「不思議な縁」といえば、釧路明輝高校が平成24～25年度、道高野連釧根支部の事務局を担当しているため私が支部長になったこともその一つです。道高野連釧根支部には選手、指導者としてお世話になりましたので、恩返しの機会を着任早々得たことはこの上ない喜びです。

そのような中、5月に行われた春季野球大会では母校である湖陵高校が16年ぶり10回目の優勝を飾ったため、閉会式で後輩に優勝旗を手渡すことができました。この春季野球大会では、私も高校3年時の昭和52年大会で優勝しており、36年の歳月を経て、優勝の喜びを後輩たちと共有できたことにも「不思議な縁」を感じております。この原稿が「くまざさ」に掲載されている頃には夏の支部予選大会も終了しており、再び後輩に、そして、わが釧路明輝高校の生徒に優勝旗を手渡すことができているか楽しみです。

故郷への恩返し

27年ぶりの故郷での勤務は、多くの同窓の皆様などの応援をいただき大変心強く思っています。私を育ててくれた全ての皆様に感謝し、地域に愛され、信頼される学校、生徒と卒業生、そして歴史ある3校に関わった多くの方々の思いを大切にする学校づくりに取り組んでまいります。今後とも同窓の皆様のお力添えをよろしくお願いします。

応援団復活

スタンドで応援を繰り広げる応援団

第95回全国高校野球選手権北北海道大会釧根支部予選が6月25日から釧路市民球場で行われました。釧路明輝高校校長で宮下聡北海道高野連釧根支部長（湖陵30期）が「全力を尽くすさわやかな試合を期待しています」と選手たちを前にあいさつしました。

また、最終日の6月30日、湖陵高校は決勝戦で弟子屈を下し、代表のきっぷを手に入れました。この大会では、全校応援となり、チアリーダーとともに、昨年100周年記念式典で復活した応援団も、スタンドで躍動しました。北大会では、おしくも駒沢岩見沢に敗れましたが、今後の活躍に大いに期待しましょう。

星　匠（湖陵30期）

釧根支部開会式で後輩から優勝旗を受け取る宮下明輝高校校長

チアリーダーも勝利を信じて応援

刊行案内

中戸川吉二作品集と北海道文学事典

釧路市出身で小説家・中戸川吉二（1896～1942）の作品集（勉誠出版500ページ、税別9，800円）が志村有弘・相模女子大名誉教授と盛厚三（1947（昭和22）年釧路市生まれ、湖陵定時卒）・近代文学研究者という北海道出身の2人の編者によって5月に刊行されました。中戸川吉二は、文学で成功を目指し上京して活動し注目されましたが、途中惜しくも病気を得て亡くなり、作品も多くは散逸し、幻の作家と呼ばれました。今日では入手困難な作品群の中から代表作を厳選し、参考文献・写真なども付して刊行しました。

また、編集が志村有弘で、執筆者の中に盛厚三が加わり北海道文学事典（勉誠出版350ページ、税別4，200円）が5月に刊行されました。この事典には、小説を始めアイヌ文学・詩歌・民謡・映画・漫画など北海道ゆかりの作家200人ほどが取り上げられ、さながら北海道文化事典の体裁。各作家の基本的履歴・業績が把握できます。総論では釧路・根室の作家と文学など11カ所の地方毎に取り上げられ、また、北海道を舞台とする文学や人名目録、参考文献目録など多彩な内容となっています。

田巻恒利（湖陵18期）

親子三代 釧中・湖陵百年紀

街おこし、緑化、地域防災に大活躍

「浜番屋」の浜木さん

釧路観光のシンボル的存在であるフィッシャーマンズワーフMOOから釧路川を挟んだ対岸、かつて「港町ビール」として親しまれた建物の隣にある、海鮮炉端焼きの店「浜番屋」を経営する浜木義雅（マサ）さんは湖陵11期の卒業生。富山県から移住した漁業者の子息として家業を手伝い、やがて独立して「北勢漁業」を設立、マグロはえ縄やイカ流し網漁業を営んでいましたが、漁業を取り巻く環境の悪化から業態を転換、現在は「釧路ホクセイ」の社名のもと「浜番屋」の運営にあたります。

そんな企業人としての顔を持つ一方で、浜木さんの名が広く知られているのは、地域活動や防災活動、緑化ボランティア活動家としてでしょう。橋南西部地区連合町内会長として、高齢者が多い地区住民の防災や避難支援に尽力する一方、「緑いっぱい市民運動世話人会」の会長として地域緑化に貢献、震災被災地の福島県にサクラを贈ったり、桜ヶ岡のズリ山斜面にシバザクラを植えるなどの活動を長年続けています。

そんな浜木さんが湖陵高に進学したのは、2年前の火災によって全焼した校舎が再建されたばかりの昭和31年。浜木さんたち11期生は、2代目富士見校舎に最初に入学した学年であると同時に、この年から始まった湖陵祭での「行灯行列」を初めて体験した生徒でもあります。また、昭和34年に卒業するまでの3年間は、湖陵アイスホッケー部が2度も全国優勝を果たした、校史に残る輝かしい時期でもありました。

やがて日大工学部に進学した浜木さんは、船舶用のディーゼルエンジンを製造するメーカーに就職しましたが、3年ほどで帰釧し家業に従事します。結婚し、3人の子宝に恵まれた30代には釧路青年会議所の第25代理事長として活躍。また、昭和50年から30年間も続いた、出世坂横の斜面に「心」の火文字を灯す「千灯祭」の初代実行委員長を務めるなど、この時期の経験が、現在の活動に繋がっていることは言うまでもありません。

そんな父親の背中を見て成長した長女の珠恵（タマエ）さん＝湖陵43期、1991（平成3）年卒＝は、北大医学部を経て現在は東京で内科院長として、次男の道大（ミチヒロ）さん＝湖陵46期、1994（平成7）年卒＝は同じく北大工学部を経て、札幌の公共コンサルタント会社に勤務し、第一線で活躍中です。

義雅さん（右）と翔太郎くん

現在は、他校に進まれた長男・将秀さんの子息・翔太郎くん＝湖陵66期、現3年生＝が創立百周年の大業を終えた緑ヶ岡校舎に在籍しています。すでに引退した部活では、小学校時代から始めたというバスケットボール部の副主将として2年連続で全道大会に出場。ポイントゲッターとして大活躍を見せてくれました。今は国立大を目指して受験勉強に励むかたわら、格段に進化（？）した湖陵祭の行灯製作作業や、秋の体育祭に参加するバレーボールの練習に汗を流しているところです。

なお、義雅さんの姉妹には、久子さん（湖陵9期、釧路在住）、恵美子さん（湖陵13期、釧路在住）、啓子さん（湖陵17期、東京在住）がおり、各々高校時代に青春を謳歌されたそうです。

西村貞広（湖陵30期）

学園だより

同窓生の皆さまいかがお過ごしですか。

「くまざさ」63号発刊に当たり、昨年からの学校の様子を簡単にお伝えします。

〈8月〉

・統一学校説明会

本校体育館を会場にして、湖陵高校が参加を要請した道内外約70の大学・短大などが参加し、行われました。各大学のブースに積極的に足を運び熱心に質問する生徒の姿が見られました。昨年度は第10回目で、今年も8月末に第11回が予定されております。一つの高校が主催して、その高校が求める大学に参加してもらう、このような説明会が定着している例は全道でも数少ないそうです。

〈9月〉

・百周年記念式典

市民文化会館を会場に、盛会裏に終了することが出来ました。同窓生の皆様にはいろいろとお世話になりありがとうございました。

・新人戦・高文連

9月から3月にかけて、高体連の新人戦や高文連の大会が行われています。多くの部活動が全道大会に進出しましたが、なかでも空手部の我妻君は全道大会において個人型の部で準優勝し3月に和歌山県で行われた全国大会へ出場しました。また演劇部は3月に大分県で行われたケータイ甲子園に出場しました。

〈10月〉

・見学旅行

2学年の全6クラスが一班編成で出発しました。4泊5日の日程で、京都・奈良・東京方面へ行ってきました。

〈1月〉

・センター試験

今年は231人が受験しました。試験当日は受験生徒の激励のため、朝早くから極寒の中、会場の釧路公立大学前に立つ多くの先生方の姿が見られました。

〈3月〉

・第65回卒業式。275人の生徒が湖陵の誇りと夢を胸に、学窓を巣立ってゆきました。

・高校入試

今年度は理数科1間口、普通科5間口の計6間口の募集となりました。これで次年度から1、2、3学年とも6間口の高校が完成することになります。

・大学合格発表

東京大学2名、国公立大医学部3名など106名の現役生が国公立大に合格し、私大においても多くの現役生が難関私大に合格しました。

・教職員異動

田川校長を始め11名の教職員が異動・退職しました。湖陵高校のために力を尽くしていただきどうもありがとうございました。

〈4月〉

・教職員異動

宮下校長を始め12名の新任教職員を迎えました。

・平成25年度入学式

240名の新入生が夢と希望を胸に入学しました。

・宿泊研修（1年生、川湯温泉御園ホテル）

・湖陵の日（4月27日）

PTA総会と授業公開・進路講演会・学級懇談を併せ、休日に行われております。また、夜にはキャッスルホテルに会場を変え懇親会が開催され、多くの父母と教職員が参加し盛大に開催されました。

〈5月〉

・教育実習（5名の卒業生を迎えました。）

・高体連釧根支部予選

すべての運動部が団体または個人で全道大会に進出しました。また野球部は高野連の春季全道大会に進出しました。すべての運動部が全道大会に進むという傾向は昨年度からのことで、後援会の会計が大変苦しくなってきております。

文化系ですが放送局（VOK）も全道大会に進出しております。

〈6月〉

・高体連全道大会

全道大会においては各クラブともよく健闘しました。

その中で空手部の我妻君（3年）は個人型の部で優勝し、恵庭南高の連続全種目優勝の一角を崩しました。7月末に佐世保市で行われる北部九州総体（インターハイ）に出場します。なお我妻君は国体道予選でも優勝し国体（2013スポーツ祭　東京）出場に推薦されることも予定されています。

また陸上部の大平君（3年）は男子110mハードルで準優勝、100mで4位入賞し7月末から大分市で行われる北部九州総体に出場します。

文化系では放送局（VOK）の木野下さん（2年）がNHK杯全国放送コンテストの全国大会に朗読部門で出場が決まりました。

〈7月〉

・野球全校応援

甲子園につながる夏の大会で、野球部がブロック決勝に進出しましたので全校応援をおこないました。弟子屈高校相手に8対1の8回コールドでブロック優勝しました。

野球部の熱い戦いに、応援団、チアリーダー、器楽部、野球部控え選手が一体となり、全校生徒をリードする形で統制のとれた、しかも盛大な応援を送りました。

以上簡単な内容となりましたが、ご容赦下さい。また、今後とも母校のため、後輩のためによろしくお願いします。

澁谷倫之（湖陵26期）

総会当番期より

今年度の同窓会幹事は、41期が務めさせていただいております。我々41期は、あの懐かしい木造校舎が取り壊される直前の1989年に卒業しました。今となっては、我々が青春時代を過ごしたあの校舎は、記憶の中に残るのみとなってしまいました。

3年前、釧路を舞台とした映画「ハナミズキ」が公開されましたが、その中に新垣結衣さん演じるヒロインが、出世坂をのぼって登校するシーンがありました。幣舞橋を、夕日を背にしながら下校するワンシーンもありました。劇中では明らかにしていませんでしたが、湖陵生がそのモデルとなっていることが伺われ、映画を観ながら25年も前に戻ったかのような錯覚に陥ったのを覚えています。

今でも目を閉じればあの思い出深い校舎での生活を思い起こすことができます。鳩が頭上を飛び回る体育館。入学式の時には本当にびっくりしたものです。冬の朝になると寒暖差で床板が盛り上がる教室。そして、その教室に毎日石炭ストーブを運んだ冬の日。行灯づくりや劇の練習など、湖陵祭の準備のために連日夜遅くまで残った夏の日・・・あの校舎での思い出は、いつもかけがえのない友との思い出に繋がっています。

8月10日に開催される今年の同窓会総会では、その懐かしい友と再会することができることでしょう。また、この会は、湖陵の伝統を築いてきた大先輩の皆様にお会いできる貴重な機会でもあります。我々41期は、今年の同窓会総会の当番幹事として準備を進めてまいりました。その過程で31期の先輩の方々からは本当にたくさんのご助力をいただきました。51期の後輩からは若いパワーをもらいました。そして、湖陵同窓会を支え続けてきた大先輩の皆様の存在を知ることができました。湖陵の良き伝統が綿々と受け継がれ今の我々はあること、その伝統をこの後も引き継いでいかなければならないという責任を、身をもって感じることができました。本当に良い機会をいただいたと思っております。

末筆ながら、これからの湖陵同窓会のますますの発展を願って止みません。　斉藤敦司（湖陵41期）

合同幹事会より

平成25年度釧中・湖陵同窓会の合同幹事会が6月27日、アクア・ベールで開かれました。栗林延次会長が、「今の役員で10年経過しました。100周年も終了したので、今回の総会で役員改選をしたいと思いますので、ご協力をお願いします」、続いて当番幹事を代表して山﨑正明さん（湖陵31期）が「41期ががんばっているので、ご協力をお願いします」とあいさつした。

今総会からは、釧中卒業生に加え、湖陵1～4期も招待とします。また、湖陵5～10期の会券割り当てはやめます。星　匠（湖陵30期）

編集後記

6月13日、「くまざさ」63号のための編集委員会が開かれました。参加者は佐藤文昭同窓会会計長を筆頭に編集委員8名の顔ぶれ。紙面の割付を中心に話は進み、新校長の挨拶を皮切りに8ページの内容を確認して委員会は終了。その後の酒の席での楽しい話題が沸騰して時間のたつのも忘れて盛り上がった一部を紹介します▼昨年、釧中・湖陵開校100周年、定時制90年の記念事業がアッと言う間に終了して心残りがたくさんあったが、その中で特に話題にのぼったのは100年記念誌の人気ぶり。今も残部がないかとの問い合わせがあるほどで事務局も困惑▼「くまざさ」61号でも紹介されている昨年7月に97歳で逝去された男澤哲夫先生の思い出話。現代国語や古典、書道、部活動の剣道を通しての厳しくも優しい先生の指導の在り方を教え子たちが今も語り継いでいるのは、なんてすばらしいことだろうと思います▼話題はさらに発展して、釧路の食文化でもある「そば談議」にまで進みました。地元でもあるせいか、皆さんはいろんな店に足を運んでおられるようで、そばの色の違いやタレの違いなど豊富な知識には感服させられました▼このように編集委員会は年に2回ほど開催されますが、老骨に鞭を打って毎回参加しているのは、すばらしい人柄の方々とのコミュニケーションがたまらなく好きであるからだろうと思っています。

川端紀一（湖陵11期）

（前列左から）川端紀一、星匠、増子正樹
（後列左から）佐藤文昭、田巻恒利、渋谷倫之、須貝喜治、西村貞広

事務局たより

皆様からの原稿をお待ちします。学友の活躍、表彰、受賞、入選、当選、刊行案内、発表会、展示会、就任、〝親子三代釧中湖陵百年紀〟家族など、くまざさを通して伝え、在校生には人生の目標と憧れを、同窓会の皆様には母校の誇りを知らせます。原稿は郵送（くまざさ編集委員会事務局）もしくは、メール（編集委員・星 hoshi@news-kushiro.jp）でお願いします。なお、紙面の都合により編集する場合もありますのでご承知願います。

田巻恒利（湖陵18期）

釧路湖陵高校
〒085－0814
釧路市緑ケ岡3丁目1番
TEL（0154）43－3131
ホームページ
http://kushiro-koryo.hp.infoseek.co.jp/

くまざさ編集委員会

同窓会会長　栗林延次（湖陵17期）
同窓会幹事長　島本幸一（湖陵19期）
同窓会会計長　佐藤文昭（湖陵22期）
編集委員長　星　匠（湖陵30期）
編集委員　川端紀一（湖陵11期）
編集委員　増子正樹（湖陵20期）
編集委員　澁谷倫之（湖陵26期）
編集委員　西村貞広（湖陵30期）
編集委員　須貝喜治（湖陵49期）
編集委員　田巻恒利（湖陵18期）
編集事務局長

くまざさ編集委員会
〒085－0014
釧路市末広町2丁目4番地
栄屋旅館内
TEL0154（23）0241
手動切替FAX
0154（23）0242